

LGBT等の学生の修学のためのガイドラインにかんする 調査結果の概要

1. LGBT等に対する意識（※有効回答数 228）

- ・ シスジェンダー・ヘテロセクシュアルの回答者は、ガイドライン制定前よりも制定後においてレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルに対して身近に感じるようになったと回答したが、トランスジェンダーに対しては変化が見られなかった。LGBT等の人権を認めるべきだという社会的な認知は制定の前後で変化は見られなかった。
- ・ 大学全体のLGBT等に対する理解度については、シスジェンダー・ヘテロセクシュアルの回答者とLGBT等の回答者ともに、制定前から制定後にかけて高まっていると評価した。ただし、後者の回答者の方が評価は低かった。

2. ガイドラインに対する評価（※有効回答数 791）

- ・ ガイドラインの内容に対する評価については「分からない」が半数であったが、それ以外の項目（趣旨に賛同する、受容や理解度が高まると思う）では肯定的意見が6割以上となっており、ガイドラインに対する評価はおおむね肯定的なものであった。シスジェンダー・ヘテロセクシュアルの回答者とLGBT等の回答者に違いは見られなかった。